



## 「第三の道」達成には、 市場主義とのあわせ技が必要

松野由希

(株)PHP総合研究所  
政治経済研究センター 特任研究員

2010. 7. 14

民主党の参議院選挙のマニフェストでは、「強い経済」、「強い財政」、「強い社会保障」を実現することが菅総理の方針として示された。そこでは公共事業中心の経済政策を「第一の道」、市場原理主義を「第二の道」として批判し、それに代わる「第三の道」が示されている。消費税などで財源を確保し、政府が使い方を間違えずに投資することで経済成長をはかるという主旨である。その際の成長分野として医療や介護などの福祉分野や環境分野が選ばれている。しかし、民主党マニフェストでは、理念ばかりで具体的な言及はなされておらず、成長への道筋は不明だ。理念先行で消費税増税に踏み込んでも、結果として国民負担を増大させるだけの結果になりかねない。そこで医療・介護の分野を中心に「第三の道」のあるべき姿について考えてみたい。

はじめに、ある分野の需要が拡大することと生産性が向上することを分けて考える必要がある。高齢化はたしかに進展しており、団塊の世代が65歳年齢に到達する2012年～2014年まで65歳以上の高齢者が年に100万人ずつ増加し、毎年1兆円以上の国民医療費が増大することが見込まれている。

さらに、医療費はその大部分が公費負担で賄われている。国民医療費のうち、自己負担は15%で、公費(=税金)が35%、保険料が50%と、その8割以上が現役世代の負担によって提供されている。したがって、社会保障分野の構造を変えないままでは、政府支出(=国民負担)ばかりが増えることになる。

もし、国民が高福祉・高負担を求めるのなら、国民の選択を尊重しなくてはならない。しかし、その中で非効率な制度が温存されれば、さらに国民の負担が増えてしまう。そこで、医療・介護分野での需要が拡大することは所与とした状態で、医療・介護分野での生産性はどのように拡大できるのかを、他党のマニフェストも参照しながら論じてみる。

生産性を決定する要因は、労働力、資本、技術である。まず、人の側面については、現在、医療・介護従事者の報酬は制度で定められているが、この部分の裁量性が拡大する施策が求められる。例えば、「混合診療の解禁」(日本創新党)や、「新しい治療方法を保険診療と併せて受けられるように規制を合理化」(自民党)によって、追加的なサービスに対して支払いがなされるようになれば、サービスの種類も増えるし、企業の参入インセンティブも増す。また、痰の吸引など、現在は医療行為として介護職員に禁止されているサービス範囲を拡大すれば、現在いる人員でできる提供サービスは増える。

次に、資本面では、「ドラッグ・ラグやデバイス・ラグの解消など、医薬品・医療機器の審査体制を充実・強化」(自民党)で、企業が資本投下するにあたっての収益が見込めるような環境整備が可能となり、研究開発投資を促すことが考えられる。また、「最高水準の医師を海外からも集めて治療にあたらせる特区」(みんなの党)で、近隣諸国の富裕層需要も取り込めるかもしれない。



最後に技術についてであるが、「遠隔医療の規制緩和」（みんなの党、新党改革）や「医薬品通販に関する規制緩和」（みんなの党）によって、様々な技術革新が可能となる。また、日本では医療過誤に対して、医療提供側が全責任を負う極めてリスク負担が高い構造となっている。しかし、このような過誤が一定の確率で発生するのであれば、それは保険によって対応することが可能である。いわゆる「無過失補償や免責制度の整備」（国民新党、新党改革）である。このように、他党のマニフェストで優れている政策を是非取り入れてもらいたい。

民主党がかたくなに否定している「第二の道」である市場主義だが、市場に委ねる側面抜きには、「強い経済」を達成することは困難である。「強い経済」を担うのはあくまでも民間部門であって、長期的に供給サイドを強くするような規制緩和や、民間企業が参入したくなるような構造改革を行わない限り、官製市場の拡大による非効率ばかりが増大することになりかねない。

本稿では医療・介護分野での規制緩和と「強い経済」の関係について論じた。規制緩和を行うことには、既得権層の大きな反発や痛みを伴う。これまでの民主党の政権運営では、郵政関係者票に配慮した郵政民営化見直し法案や、規制強化の労働者派遣法改正法案など、既得権擁護につながりかねない政策がとられてきた。しかし、「既成の政治や体制に何らしがらみのない」という民主党がその通りに既得権を切り崩していかない限り、「強い経済」、「強い財政」、「強い社会保障」を手にすることはできない。既得権に配慮する政治を止めて、必要な規制改革を進めることで、マニフェストに掲げた「元気な日本」を復活させて欲しい。